

## 「伏水古城山開拓事件」簿冊

明治天皇を葬る伏見桃山御陵の地は、豊臣秀吉・徳川家康の時代に伏見城のあった伏見山（木幡山）です。元和9年（1623）に徳川家光が將軍宣下を受けた際に城として使われたのを最後に廃城となりました。その後、城跡は幕府の管理になり、伏見奉行所の設置後はその管理下に置かれました。山の入り口には高札が建てられ、山へ入ることが禁じられていました。また、江戸時代中期には桃の花がきれいなことから、桃山とも呼ばれました。

明治3年（1870）10月、淀川筋の見分が行われた際、この山の開拓が認められました（件名「堀内村伏見御城山開拓について口上書」）。それを受けて紀伊郡堀内村、六地藏村、大亀谷村、深草村の住民により藪地等の開拓願いが京都府に出されました。その時の記録を綴ったのが行政文書のこの簿冊（簿冊番号「明 03-0053」）です。

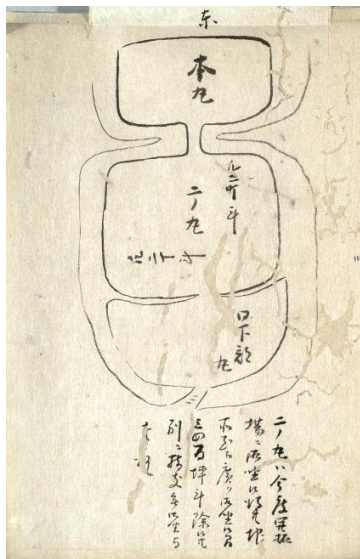
その中に「伏水屯所兵隊墓所について」という一件が綴られています。内容は、古城山を見分したところ、字池田三左衛門か、字二ノ丸の土地が墓所としてよいのではないかとということで、それぞれの略図も付けられています。

字二ノ丸の図には、「本丸」「二ノ丸」「日下部丸」の三つの方形廓と堀、土橋が描かれていて、「二ノ丸」には東西が「凡二町斗」、南北が「凡二丁斗」の書き込みがあります。下端には「二ノ丸は今度開拓場に御座候得共、地所至て広く御座候間、三四百坪斗除候共、別に指支無御座と奉存候」と、広さの上では問題がないと記されています。

「本丸」「二ノ丸」「日下部丸」は、現在、桃山町古城山、桃山町二ノ丸、桃山町治部少丸という地名になっています。

ます。「日下部丸」の堀跡には、現在、治部池という池が残っています。治部は石田三成（治部少輔）所縁の地名です。

以上から明らかなように、この図は簡略ながら明治初年の伏見城跡を描いた絵で、行政文書の中に伝わる貴重な資料の一つと言えます。



明 03-0053 [伏水古城山開拓事件](#)

(2016年2月29日公開)